

# 第1期ブロック講師研修会に41人が参加 2段検定新合否基準，3段1次試験（推手）の変更内容に 集中的な研修を実施

6月16日に開催された第60回理事会，第37回通常総会で承認された第1期ブロック講師を対象とした「第1期ブロック講師研修会」が6月23～24日に東京・本部研修センターで実施された。

研修会は39人のブロック講師に2人のブロック太極拳指導員委員会委員長が加わって41人の参加のもとで行なわれ，日本連盟講師8人が研修講師を担当した（講師名；石原泰彦，川崎雅雄，辻本三郎丸，友正慧，大塚かづ子，高山恵靖子，小川篤子，三代一美）。

2日間の研修は，今年度から適用される「2段検定新合否基準」と，来年度から3段検定都道府県1次試験の推手套路試験の内容が一部変更されて実施される「推手基礎套路」について，集中的な研修が行なわれた（本誌掲載の参考資料を参照）。

## ◎ 2段検定新合否基準：

2段検定受験者が合否の基準をより分かりやすくするために，新合否基準では具体的な「不合格基準」を設けて，これに該当しなければ合格とするもの。より具体的な動作基準を設けて，合格率の向上を図ることを目的とするもので，今年度の2段検定試験から適用される。

第1期ブロック講師は，この新基準を各ブロック，各県に伝達する役割りを担う。

研修会では，参加者全員が受験者役を演じ，また，審査委員役を体験して，合否判定が適切に行なわれているかどうかについて研修が行なわれた。

## ◎ 3段検定1次試験の変更内容：

従来実施されてきた「推手規定套路前半部分」から「活歩推手」（移動の歩法を伴う部分）を取り除いて，受験者の負担を軽減するとともに，その後の推手技術を発展

させることに役立つようにするために変更されたもの。競技大会などで今後とも行なわれる「推手規定套路」に対して，この3段1次試験用のものは，「推手基礎套路」と呼ぶことになる。研修会では，参加者全員が甲と乙の両方を指導できるように研修を行なった。

研修会参加者が，第1期ブロック講師としてさっそく，この重要な2項目を各ブロック，各県に伝達する役割りを担うことになったため，参加者全員が緊張感を保ち，集中的で充実した内容の研修となった。

参加者は次の通り。

### 2007年度第1期ブロック講師研修会参加者名簿

東北・北海道ブロック＝川島潔子(岩手)，岩根節子(岩手)，岡野範子(宮城)，田中紀代美(秋田)，宮本一弘(北海道)，北関東ブロック＝堀米秀夫(群馬)，上原田紀子(新潟)，山崎優子(長野)，鈴木真理子(栃木)，小山晶子(群馬)，南関東ブロック＝大和久美代子(埼玉)，塚原加代子(茨城)，車谷和子(千葉)，岩田崇江(東京)，石川佐奈江(埼玉)，小野尚美(神奈川)，藤えり子(東京)，川端智子(東京)，東海・北陸ブロック＝高見一枝(愛知)，岩佐育代(三重)，市橋弘幸(福井)，杉山哲(岐阜)，坂口志津子(石川)，近畿ブロック＝三方由子(大阪)，吉森忠弘(兵庫)，児玉幸子(大阪)，阿南七重(兵庫)，津田洋子(奈良)，吉田由美子(滋賀)，成瀬陽子(京都)，中国・四国ブロック＝図子幸子(香川)，藤田紀子(山口)，丸谷治子(岡山)，西本タミ子(香川)，岡田淑子(高知)，九州・沖縄ブロック＝篠崎しのぶ(福岡)，今古賀環(佐賀)，村上里絵(熊本)，川原恵子(福岡)，有馬勝博(鹿児島)，富田一彦(福岡)

## 初段・2段検定 新合否判定基準

2007年4月14日  
(社)日本武術太極拳連盟  
太極拳指導員委員会

### ◎初段検定 合否基準：

下記の4項目を基本的に満たしていれば合格とする。

1. 歩型、身型、手型と動作の路線が、おおむね要求通りであること。
2. 立身中正が、おおむね保っている（臀部、上半身、頭部がおおむね中正であること。明らかな傾きは不可）。
3. 速度が、おおむね均一であること。
4. 定式において基本的に上下動作の協調一致があること。

### ◎2段検定 合否基準：

下記の6項目の「不合格基準」を設ける。6項目のいずれかに該当すると不合格とする。

1. 初段検定合否基準（1～4）を基本的に満たしていること。基準を満たしていない項目が複数項目出現すると不合格とする。
2. 外形的に明らかな「つぶれ」（=膝）、「ねじれ」（=膝）、「外れ」（=眼・頭部と手、体の方向が一致しない）が複数回出現すると、不合格。
3. 上歩から弓歩にいたる動作で、外形的に明らかな「前引き」（=速度が加わる前引き、先に膝をはっきりと曲げる弓歩）が複数回出現すると、不合格とする。
4. 手法：「推掌(注1)」の定式において、肘が明らかに伸びきったり、突っ張っている動作が複数回出現すると不合格とする。  
また、「分掌(注2)」、「按掌(注3)」、「雲掌(注4)」および「将(注5)」の定式と過渡動作で、肘が明らかに伸びきったり、突っ張っている動作が複数回出現すると不合格とする。
5. 歩法・身法：「上歩(注6)」の動作時に腰・体が明らかに正面に向いている動作が複数回出現すると、不合格とする。  
また、「手揮琵琶」、「倒卷肱」の定式で、腰・体が明らかに正面に向いている動作が複数回出現すると、不合格とする。
6. 第1「3点セット」（ゆっくり、均一に、ゆるめながら）から明らかに逸脱していると、不合格とする。

※上記の4. および5. の(注1～5)の動作は、24式太極拳における下記の動作に限定して判定する。

(注1)「推掌」＝①~~左~~膝拗歩、②倒卷肱、③左攬雀尾「前按」、④右攬雀尾「前按」、⑤高探馬、⑥穿梭、⑦閃通臂、⑧如封似閉、の8動作

(注2)「分掌」＝①野馬分~~掌~~、②白鶴亮翅、③左攬雀尾「弓歩」、④轉身右攬雀尾、⑤轉身右攬雀尾「弓歩」、⑥右~~左~~脚、⑦轉身左~~右~~脚、⑧十字手、の8動作

(注3)「按掌」＝①起勢、②左攬雀尾「下按」、③右攬雀尾「下按」、④如封似閉、の4動作

(注4)「雲掌」＝①単鞭、②雲手、③単鞭、の3動作

(注5)「将」＝①左攬雀尾「将」、②右攬雀尾「将」、の2動作

(注6)「上歩」＝①野馬分~~掌~~、②~~左~~膝拗歩、③穿梭、の3動作

以上

## 参考資料

2008年度太極拳3段検定 都道府県1次試験

# 「推手基礎套路」動作順序

2007年6月23日  
第1期ブロック講師研修合宿

- 1組 起 勢
- 2組 合歩四正手（甲乙右足前・右上から）（乙**掬**甲**掬**から3回，甲**掬**乙**掬**から3回）
- 3組 合歩単推手  
（1）平円単推手（乙弓腿・按—甲後坐・化，から3回）  
（2）立円単推手（甲上歩弓腿・**掬**—乙後坐・化，から3回）  
（3）折畳単推手（甲上歩弓腿・**掬**—乙後坐・化，から3回）
- 4組 合歩双推手  
（1）平円双推手（甲弓腿・按—乙後坐・化，から3回）  
（2）立円双推手（乙上歩弓腿・**掬**—甲後坐・化，から3回）  
（3）折畳双推手（乙上歩弓腿・**掬**—甲後坐・化，から3回）
- 5組 合歩四正手（乙上歩，甲退歩で，甲乙ともに左足前，左上から始める＝（甲**掬**乙**掬**から3回，乙**掬**甲**掬**から3回行なう）
- 6組 収 勢

### ◎動作要領：

1. 両足は適切な足幅を保ち，前進・後退・転腰をはっきりと行なう。
2. 両手は，柔らかく，軽く保ち，ゆっくりと動かす。両手を，足・腰の動きより速く動かさないこと。
3. 体の中正を保ち，目は前方を平視する。体が顕著に前傾したり，ねじれたり，目が下を向くことがないように行なう。
4. 相手と協調して動く。「沾黏**連**隨」・「不**丢**不頂」を保つ。

### ◎審査基準：

下記の場合は，原則として不合格判定とする。

- 1) 規定の歩数，手法の回転回数が，それぞれ，明らかに不足または超過した場合で，歩数について2回以上，または，手法について2回以上の明らかな過不足があった場合。
- 2) 規定動作の順序を間違えたまま，あるいは規定動作の1つが明らかに欠落したまま，次の動作に移り，そのまま「収勢」を行なった場合。
- 3) 動作が10秒以上停止した場合。
- 4) 試験では，この套路を2回行なう。1回目はゆっくりとおこない，起勢～収勢を3分以上5分以内で行なう。3分未満または5分以上は不合格とする。
- 5) 2回目は連貫して少し速く行ない，ゆっくりと行い，起勢～収勢を3分以内で行なう。3分以上は不合格とする。1回が時間内に収まって合格であっても，2回目が収まらなければ，不合格とする。

上記以外で，動作が多少，不正確であったり，乱れたり，停顿等があっても不合格判定としない。

以上